

# 古文書を学ぶ会

## 歴史の扉をひらくきっかけとして 古文書を学んでみませんか

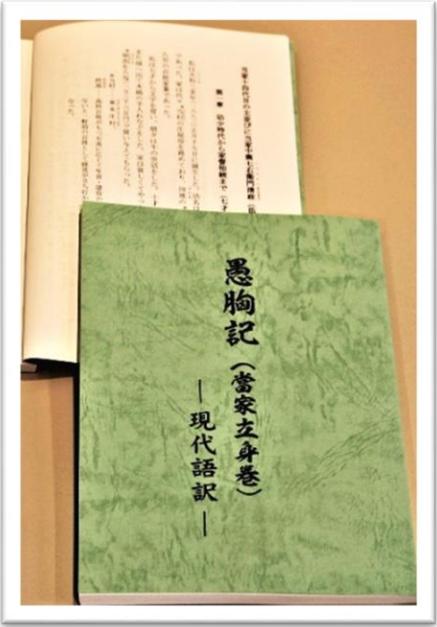
左の古文書は、『愚胸記』の一部です。右3行目から

「夫故諸軍書を見、後二ハ能く合点二入り多く見申、其上買求テモ読申也、初ハ唯面白クテ見候へ共」

「それゆえ諸軍書を見、後にはよく合点に入り多く見申し、その上買求めても読み申すなり、初めはただ面白くて見そうらえども」となります。

### 活動内容

- 【日時】 毎月 第3土曜日(原則) 午後2時～ 4時
- 【場所】 播磨町郷土資料館 学習室
- 【年会費】 2,000 円 【会員数】 13名 (R7年4月現在)
- ◎江戸時代中期の播磨町古文書『愚胸記』を2年がかりで解読し、現代語訳にまとめた。(令和5年3月、播磨町郷土資料館より発行。資料館窓口で販売中。)
- ◎現在は、播州で有名な『義臣伝実記』を解読中。  
※赤穂浪士の吉良邸討ち入りまでの1年間、隠れた苦勞とその背景について詳しく読み解きます。



「愚胸記」ー現代語訳

見学・入会ご希望の方は、下記までお問い合わせください。

**播磨町郷土資料館 電話：079-435-5000**

〒675-0142 加古郡播磨町大中1-1-2

開館時間：【4月～9月】午前9時30分～午後6時、【10月～3月】～午後5時

江戸時代へ一緒にタイムスリップしませんか。  
 今まで目にしていた景色が  
 ちがって見えてくるかもしれません。

百人一首の原文文字や、街角で見かける店の「のれん」の文字が読めて楽しい!

【問】さて、この「のれん」の字は?



【答】生楚者(きそば)※注1

歴史上の人物ジョセフ・ヒコの『漂流記』を読み、アメリカ人の生活に驚きながら、懸命に生きたヒコの感動を共有できてうれしい!

梅谷七右衛門清政の『愚胸記』から、播磨町の江戸中期の村や生活の様子がわかっておもしろかった!

※注1・2  
 以下3文字は、  
 変体がな  
 楚(き)者(は)  
 春(す)

【意味】  
 春(す)く 高砂 道  
 ↓そのまままっすぐ



播磨町の道標(川端)

## 会員の声

読めて

○うれしい!  
 ○楽しい!  
 ○おもしろい!

寺や公園にある芭蕉や蕪村の句碑や道標が読めるようになり、積極的にそれらを見ようとするようになって楽しい!

浮世絵や掛け軸などの文字が読めて、内容がわかり、おもしろかった。

たとえば「<sup>はるなつふゆにしゅうごごう</sup>春夏冬二升五合」と書いてあり、これは、「<sup>あきな</sup>秋ない<sup>ますますはんじょう</sup>升升半升」と読み、江戸時代のしゃれっけがおもしろかった!

—「<sup>じなぞ</sup>字謎」という文字遊び—